



Washington Japanese Language School 2022年11月5日 発行 第24号

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



ワシントン日本語学校
校長 神戸 昭夫

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411

10月29日 富田大使が本校を訪問されました

10月29日、在アメリカ合衆国日本国大使館の富田大使が本校を訪問され、小学部4年生の国語、中学部3年生の数学の授業を参観されました。また、本校が借用している聖心SR校に、以前上皇后様が訪問された際のお写真等もご覧いただきました。ご紹介いたします。



<富田大使のお話>

皆さんおはようございます。日本大使の富田です。大使館というところで仕事をしていますが、皆さん、大使館ってどんな仕事をしているか知っていますか。いろいろな仕事をしているのですが、その中の一つ大事な仕事は、アメリカにたくさん住んでいる日本の人たちが、安心して暮らしていけるようにお手伝いするのが大使館の仕事です。

世界に、日本の補習校はたくさんありますが、このワシントンの学校が一番古いです。昔は大使館の中で授業をしている時代がありました。世界で一番古い学校で勉強していることは、皆さんの自慢になることだと思います。

今日は元気に国語の勉強をしている皆さんを見て、大変安心しました。私も実は子どもが3人いて、韓国とイギリスの日本人学校で勉強していました。皆さんも普段現地校で勉強しながら、週末はこの補習校で勉強し大変なこともあると思いますが、私の子どもも日本人学校での勉強が、大変いい経験となり、友達もたくさんできました。皆さんもここで友達をたくさん作ってしっかりと勉強していただきたいと思います。



<児童からの質問①>「一番難しいことは何ですか。」⇒「日本の人のお手伝いをするということの他に、大使館としてのもう一つの仕事は、日本とアメリカの間のいろいろな問題を話し合って解決するということです。今世界の中で非常に難しい問題がたくさんあります。たとえばウクライナでの戦争は皆さんもニュースで聞いていると思います。そのことに日本とアメリカが協力してどのように対応できるかということも、今の私にとって一番難しい課題だと思います。」



<富田大使のお話>

大変、高度な授業をしていますね。私の時代はこういう授業は全くなかったし、昔は先生が黒板に白墨で書いていました。本当にわかりやすい授業をやっていると思って大変感心しました。

<生徒からの質問①>「学生時代に一番好きな教科は何でしたか。」⇒ 「あんまり勉強は好きではありませんでした。でも歴史は好きでした。」

<生徒からの質問③>「英語と日本語と2か国語を話せることはどのような場面で役に立ちますか。」⇒ 「英語は今国際語です。いろいろな国で仕事をするときに使う言葉は基本的に英語です。今グローバル化と言って、いろいろな形で国と国の関係が深まっていますが、その基本になっている言葉は英語です。英語を学習することはそういう意味で大事です。」

<生徒からのお礼のことば> お越しくさきありがとうございます。ここにはずっとアメリカに住んでいる人、これからずっとアメリカに住み続ける人、最近越してきた人、もうすぐ別の場所に行ってしまう人もいます。でもみんな今、中学3年生で、将来のことについて具体的に考えなければならない時期で、中にはもうなりたい自分とかなりたい職業とかも決まっている人もいますけど、決まってない人もいて、そんな中、今回富田大使のお話を伺えたことは必ず私たちの糧になると思います。ありがとうございました。



<生徒からの質問②>「海外に行った際に、日本との相違に驚いたことや、外国で不便だなと思ったことはありますか。」

⇒ 「外務省に入って41年目。これまで6か国に9回勤務していて、イギリス、韓国、アメリカで2回ずつ、イスラエル、フランス、シンガポール、いろいろな国に行きました。確かに日本と風習や文化が違ったり、言葉が通じなかったり不便なことはありますが、「住めば都」ということわざがあります。その国に行ってその国を好きになる、その国のことに好奇心をもっていろいろなことを調べてみたり、友達を作ったり、そういう気持ちでやるのが大事ではないかと思います。皆さんもアメリカにどのくらいおられるかわかりませんが、もちろんこの補習校で日本語、あるいは日本の勉強をしっかりとしながら、せっかくアメリカにいるんだから、アメリカのいいところをできるだけ吸収していただければと思います。」

<生徒からの質問④>「以前に書かれたサッチャーについての伝記の冒頭の部分を読ませていただいたのですが、そこにサッチャーのことが人間的にあまり好きではないと書かれていて、どうして伝記を書かれているのに好きではないだろうと不思議に思いました」⇒ 「サッチャーという本を書く前に、チャーチルという本を書きました。チャーチルという人は皆さんもご存じの通り大変面白い人です。波乱万丈の人生を送った人です。私の個人的な感想はともかくとして、サッチャーという人が政治家として達成したことを考えると、大変大きな歴史的な業績をあげた人でもあるので、その人の本を書いてみようということになりました。私の本を読んでいただいてありがとうございました。」